

いかと思います。そのことを申し上げ、私の質問を終わります。

○**渋谷佐輔議長** ここでお諮りいたします。

本日の一般質問の予定者は5名であります。定刻の5時を過ぎることとなりますが、本日の会議時間を延長することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔議長** ご異議なしと認めます。

よって、そのように決定いたしました。

それでは、市政一般に関する質問を続行いたします。

### 赤間泰広議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位5番、議席番号10番、赤間泰広議員。

(10番赤間泰広議員登壇)

○**10番 赤間泰広議員** 公明党の赤間泰広でございます。本日最後の一般質問となりました。いましばらくの間おつき合いのほどをよろしくお願い申し上げます。

迎える3月11日、東日本大震災の発災から丸5年を迎えます。この5年間、公明党は被災3県に国会議員や地方議員が入り、被災地との連携を強め、被災者の声を国政に届け、未曾有の大災害からの復興を力強くリードしてきました。

被災地では、立党精神に根差した公明党の現場主義が光っています。例えば宮城県本部では、5回にわたって仮設住宅入居者へのアンケートを実施、お風呂の追い炊き機能の設置など、住環境の改善を進めてきました。また、全国で地方議員同士が連携し、宮城・岩手両県の瓦れき処理を進めたほか、福島県本部と都議会公明党が力を合わせて福島への旅行費用の一部を東京都が助成する被災地応援ツアーなども実現しま

した。

被災地に響く復興のつち音とともに、インフラや住宅の整備は着実に進んでいますが、今なお17万4,000人もの方々が避難生活を余儀なくされ、風化と風評という2つの風の闘いが続いていることを忘れてはいけません。公明党は4月から始まる次の5年間の復興創生期間を前に、3月12、13日の両日、被災3県本部ごとに復興会議を開催し、復興加速へ向け決意を新たに出発いたします。被災者が希望を持ち、一人一人が心の復興、人間の復興を遂げるその日まで、徹して寄り添い、闘い抜いてまいる決意であります。

それでは、通告書に従い、質問をさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

1点目は、バイオマス発電による排熱利用についてであります。

平成29年春の稼働を目指して動き出しているこのバイオマス発電は、林業再生及び地域再生の視点から見て急がれる地方創生の切り札と期待されております。バイオマス発電自体、大変意義深い事業でありますけれども、最終エネルギー消費の5割は熱であり、電力は4分の1から3分の1にすぎないと、現在でも給湯や暖房、農業施設、産業用プロセス熱など、さまざまな場面で大量の化石燃料が消費をされており、これらは基本的にはバイオマスに代替可能なものであります。熱利用であれば地域に存在する木材を利用しますので、輸送コストも抑えることができ、化石燃料の高騰から価格競争力も高まっており、ユーザーにとっても排熱利用というメリットが大きいエネルギー資源ではないかと考えます。バイオマス発電事業の進捗状況と検討課題、今後の排熱利用の展開についてお尋ねいたします。

次に、2点目の小型家電の回収事業についてであります。

この事業に対する市民の皆様から大変よい事

業であるとの声が私のところにも多数のご意見が届いております。今後もぜひ継続的、定期的に行っていただきたく思います。

小型家電リサイクル法、2013年4月から発効ですが、使用済み小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律の本格的な施行がされました。長井市では現在まで燃やせないごみとして粉碎後、アルミなどの金属類やプラスチック類が分別され、残った部分が埋め立て処分になったということを知っております。埋め立て処分された中には金や銅などの金属、また今話題になっている各種のレアメタルが含まれており、あたかも都市鉱山としての脚光を浴びている現在であります。

今回の対象品目としては携帯電話、DVDビデオ、デジタルカメラ、ノート型パソコン、デスクトップ型パソコンなどになっております。以前は燃やせないごみとして粉碎後、埋め立て処分をしていましたが、売り物になる、すなわち価値あるものとして取り扱われます。長井市はレインボープランという全国的にも有名である循環型社会の構築、環境に優しい社会づくりを約20年も前から実施してきました。ものは違えども通ずるものは同じであると信ずるものであります。個人的には少々遅かったと思いますが、今後の継続、展開を考えればそれもよしとすべきだと思います。現在の状況と今後の展開についてお尋ねいたします。

次に、3番目の健康診断受診率向上について、現在の状況と今後の展開についてお尋ねいたします。

健康診断料の引き下げによって受診率のさらなる向上を提言いたします。

次に、4番目の長井市の魅力を全国に発信するための提言をさせていただきたいと思っております。

現在、長井市でもながいシティプロモーション推進事業、観光交流センター整備事業、観光地域づくりプラットフォーム事業など、さまざま

な取り組みの計画が実施されております。私は以前からNHKの大河ドラマで長井市の魅力を発信できる物語が欲しいなと常々思っております。全国に長井市を題材にした小説を募集してはいかがでしょうか。例えば特選に100万円とか、また有名人に長井の旅のエッセーを書いてもらい、JRの雑誌「トランヴェール」等に出してもらおうなど、今後のための投資をはいかがでしょうか。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 公明党の赤間議員のご質問にお答えいたします。

議員からは提言も含めて4点ほどいただきました。まず最初に、バイオマス発電についてでございますが、バイオマス発電による排熱利用についてご提言をいただきました。

市内寺泉にバイオマス発電所の立地を進めております日本バイオマス開発（株）が中心になりまして、経済産業省、平成26年度の補正予算事業で地産地消型再生可能エネルギー面的利用等促進事業費補助金というものを受けまして、これは長井市も協力して行うものでございましたけれども、発電用エンジンを冷却した場合に発生する排熱利用によりまして、発電事業者と地域の双方に利益になる事業可能性について、平成27年度に調査を行ったものでございます。長井市といたしましても、地域利用の観点から共同申請者として調査に参加いたしました。調査は東北芸術工科大学の三浦先生を委員長に熱利用システムの県外専門メーカー、地元農業委員、またその時々には食品事業に係る県外企業、山形県の担当部局をオブザーバーに迎えまして、現地調査と3度の委員会の議論を経て、2月29日に補助金交付団体に報告書を提出しております。

調査の内容は専門的な内容ですので、概略を

申し上げますと、熱の供給先の付近の農業ハウスや福祉施設等と仮定した場合のコストメリットを試算しております。その結果、計算上は現状の熱利用のコストをそれぞれの施設で引き下げるメリットが認められました。また、新たな農産物への可能性なども検討しております。しかしながら、実際には熱を供給する設備投資が必要でございまして、夏と冬で熱需要が大幅に違う点など、コストとなるということ、さらに熱量そのものが小規模であると、大体バスタブで1日当たり100杯、80度程度のお湯であるということであることから、事業化には熱源に近いところで夏の需要も期待できる条件が必要であることを指摘されました。調査にご協力いただきました地元の方々には熱利用の可能性に期待されておりますので、発電事業の進捗にあわせて発電事業者の協力を得ながら、さらに可能性を探ってまいりたいと思います。

なお、この寺泉にことし着工予定のバイオマス発電所でございますけれども、赤間議員がおっしゃっていた燃やすタイプではなくて、チップ化したものを圧力かけてガス化すると、それでタービンを回すと、そのタービンが熱を持つので水で冷やすということですから、排熱自体はいわゆる少ない、むしろ発電に効率のいいエネルギーシステムだというふうに言われているようでございます。

次に、2点目の小型家電の回収事業についてお答えいたします。議員からは市民から好評と聞いていると、現在の状況と今後の展開はどうなるのかという、よい取り組みなので来年度も継続すべきだということでございます。

小型家電リサイクル事業につきましては、平成25年4月1日に施行された小型家電リサイクル法に基づきまして、長井市では昨年度から準備を始め、今年度からリサイクル事業に取り組んできたところでございます。まず手始めに11月28日にイベント回収を、次いで12月14日から

25日まで窓口回収を実施しました。現在は3月1日から14日まで窓口回収を行っておりまして、今年度は合計3回の実施となります。回収対象を売却可能な8品目に限定して実施しましたところ、11月と12月の回収状況は、パソコンが270台、携帯電話が120台、その他の小型家電と合わせて合計回収重量が3,082キロとなっております。202名の市民の方が持参してくださいました。

今年度好評だったことを受けまして、来年度は回数をふやしてイベント回収を4月と11月の2回、また窓口回収を8月と12月、3月の3回、合わせて5回実施する予定にしております。来年度からは回収品目をふやす予定です。今年度実施している8品目に、市民から要望があったプリンター、ラジカセ、ビデオデッキの3品目を加え11品目にいたします。今後も小型家電リサイクル事業を推進し、小型家電製品に含まれる鉄やアルミ、レアメタルなどの再資源化や廃棄物の減量化を図っていきたく思っております。

続きまして、3点目の健康診断率向上についてでございます。

現在の状況と今後の展開はどうだということでございますが、特定健診の受診率の推移につきましては、平成22年度は32.7%、23年度は33.2%、24年度は38.5%、25年度は40.4%、26年度は41.5%と年々受診率が向上してきております。

本市では受診率向上に向けた対策として、健診体制の整備を行ってきております。具体的には健診日程を多く確保すること、人間ドックの希望者が多いため人間ドックの回数を多く確保すること、個別健診の形でも実施することに努めております。平成28年度は総合健診を30回、このうち土曜日は5回、人間ドックはことしプラス2回の17回実施する予定でございます。個別健診につきましては平成23年度から実施して

おりまして、公立置賜長井病院を初めとする市内4つの医療機関で受診することができるようにさせていただいております。

未受診者への対策といたしましては、健診を申し込んだ方に対して残り健診日程の案内と予備日を設定し、未受診者に郵便で個別通知いたしまして受診勧奨を行っております。健診を申し込まなかった40歳から74歳までの方には受診券を発行し、集団健診や個別健診を案内しております。健診を申し込んだ方が忘れず受診していただくために、健診票の配布を健診の1カ月前後としたことや今年度は8月末からの健診日ですが、健診日の近くに受診勧奨のチラシを全戸配布いたしました。また、健診のPRといたしましては、「広報ながい」、市ホームページ、おらんだラジオ等でお知らせさせていただいております。

平成24年1月に健康課で、健診受診状況の実態把握のためアンケート調査を実施しました。対象者は40歳から74歳までの国民健康保険被保険者の方で、「特定健診を受診しますか」の質問に対しまして、「健診を受診しない」と答えた方は全体の49.8%でした。「健診を受診しない」と答えた方に理由をお聞きしましたところ、64%の方が「定期的に通院しているから」という理由でございました。その他の理由といたしましては、「仕事や家事で忙しい」、「お金がかかる」、「健康に自信がある」などの理由で、その方々229名に電話で直接受診勧奨しましたところ、受診率が5.3%上昇したというケースもございます。そのことから、平成28年度はさらなる受診率向上を目指しまして、1月の世帯健診の申し込みのときに特定健診申し込みのなかった約1,600人の方々へ電話で受診勧奨をする予定でございます。

最後に、提言があったという健康診断料の引き下げで受診率の向上をとということでございますが、この引き下げについては健診料金につい

て申し上げたいと思います。まず、特定健診でございますが、平成26年度から全年齢で無料、これは4,000円だったのを無料にしております。胃がんリスク評価につきましては、人間ドックのオプションで受けることができますが、料金の一部を助成させていただいております、自己負担は500円となっております。また、歯科保健事業の充実といこうとで歯周病疾患健診につきましては、来年度から40、50、60、70歳の方は無料とさせていただく予定でございます。また、来年度から糖尿病予防対策に重点を置くことにしております、糖尿病検査につきましては、空腹時血糖検査に加えてヘモグロビンA1c検査を40歳以上の方全員に無料で実施することにしております。これら健診料金の引き下げを行っておりますが、市民の皆様が受診する動機づけとなり、少しでも受診率の向上に結びつけることができればと考えているところでございます。

料金表をお持ちだと思いますが、長井市の場合はこちら、第五次総合計画がスタートしましてから2年連続でずっと引き下げをしております、全部無料にするというのがいいことではないと思いますし、この負担は大きなものになりますので、これまでまず啓蒙してまいりたいと思っております。

最後の質問で、これは提言だということなんです、長井市の魅力を全国に発信するための提言ということで、大変ユニークなご提言をいただきました。NHKの大河ドラマで長井市の魅力を発信できる物語が欲しいということとか、これは以前、実は少年議会でも提案いただいております、これもやっぱり有名なプロ野球選手とか長井から出れば、これはすごいことになるんじゃないかということで、ぜひ中学生の少年議員にもあなたになってほしいということで励ましたところではございましたが、例えば大河ドラマでしたら可能性として、真剣に考えます

とやっぱり伊達政宗の宿老であった片倉小十郎、白石に移ったわけですけども、もともと長井で生まれたということで小桜館のところの小桜城として居城だったということになっておりまして、白石市のほうも長井がふるさとというふうにしておりますので、ぜひそういったことで脚光を浴びるといことが可能性としてはあるのかと。ですから、どちらかというとな長井が主人公にはちょっと難しいかもしれませんが、ほかの市なんかと、白石とかあと仙台市とか連携してそういうストーリーをつくるということなどもおもしろい試みではないかと思ひます。

あともう一つ以前から言われておりましたのは、朝の連続ドラマ、NHKの、それに長井のあるストーリーを実現化できないかということが、実は今から七、八年前ぐらいあったようですが、今、主人公がどうしても女性なものであるから、なかなかストーリー化するのが難しいというような話もあって、今は消えておりますけれども、やっぱりそういったことなどを考えていくのも一つだと思ひます。ただ、長井のほうではこれを正当なルートでいこうというふうに考えておりまして、そのためには中央のマスコミのほうにいろいろ取り上げていただいて、全国に知名度を上げるために広告宣伝というのを1回きりじゃなくて、やっぱり3年ぐらい続けてシティプロモーションで頑張っていきたいと思ひております。それに加えて赤間議員からあったような小説を募集するというのもいいと思ひます。ただ、JRの雑誌「トランヴェール」に出してもらうには、よっぽどその作家が知名度があつて「トランヴェール」の契約してる作家さんだといひんですが、そうじゃない場合は多分お金がかかるというふうに思ひます。そんなことでいろいろ調査しながら、長井の売り込みに全力を尽くしてまいりたいと思ひます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間泰広議員** どうもありがとうございます。市長からはいろんな面で回答をいただいて、上から順次、私、再質問させていただきたいと思ひます。

バイオマスについてまず初めにお尋ねしたいと思ひます。

先ほど80度Cぐらいでバスタブが100杯ぐらいいしか出ないというようなお話でしたけれども、ここで余り私も期待持ってしまうかもしれませんが、余り将来的に何か使い道がないんではないかという感じがするのかなって。正直なところどうでしょうか、皆さん、周りの方はまだまだいろんな面で使っていけるんだっていうような何か期待感がものすごく膨らんでいるんですけども、端的にどのようにお考えになつてんのか。使い道あるのかないかぐらい、ちょっと余り期待を持たせるようなことでは困ると思ひうんで、正直なところお話ししたいと思ひます。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

バスタブ100杯ぐらいということですから、500リッターぐらいでしょうかね、400か500リッターですね、きっとバスタブ、1杯っていうのは。ですから、50トンぐらいですか、500。そうですね、50トンぐらいですので、使いようによってはそこそこ使えるのかなというふうには思ひますが、決して多量ではないと。やっぱり一番問題は、その発電所のすぐそばに使う施設があればいいんですけども、それが数百メートル離れてますとその管を布設するお金がかかるということと、どうしても温度が冷めてしまいますので、その部分をどういうふうにするかと。あと一番肝心の部分は、その排水を熱に交換するシステム、これらの投資が要るということですので、これは例えば温泉の排湯を利用して発電するとかどうのこうのっていうのいろいろありますよね。それが容易にできない

ってというのは、やっぱりそういった最初設備投資がかかるということだと思います。したがって、やっぱり事業者である日本バイオマス発電、今度は長井の現地法人ができたようでございますけれども、そちらのご協力を得てその近くにそういった施設をつくることができれば、どこで投資するかという課題は残りますけれども、利用はある程度可能かもしれません。ただ、今のハウス、例えばあの近くですと啓翁桜とかあるいはトマトをハウス栽培とかなさっている方がいらっしゃる、農事組合法人あるんですが、そこまで引っ張ってくるのか、あるいはリバーヒルさんのほう500メートル離れてる、それまで引っ張ってくるということと果たして採算的に合うのかということなどがあるかと思えます。ですから、そこはいずれ正式に工事とか始まる時にやっぱり地元の皆様にはきちんとお話をしながら、それでどうするかということを検討するテーブルも必要なかなと考えております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間泰広議員** わかりました。大変厳しいようなお話なんですけれども、もしその事業をしたいなっていうようなことがあれば、例えば商工のほうの資金援助とか、または農業関係の補助金とかっていうやつが使えると思うんですけれども、そういったものは間違いなく使っていけるということでしょうか。ちょっとお願いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 赤間議員おっしゃるように、例えば施設用の農業ハウスとかなんかですと、土地をどういうふうに求めるとか、あとどのぐらいの規模をするかということはもちろんあるわけですが、農家あるいは農業法人であればそういったものもできますし、あと農業法人でなくても農地でない場所ですとさまざまな事業ができるかと思えます。また、その熱を利用し

て6次産業化ということもできますので、何かビジネスをされたいという方がいらっしゃったらやはり農林課あるいは商工観光課に相談いただいて、あと技術的なものは県の農業技術普及課のほうにもご相談いただければというふうに思っているところです。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間泰広議員** わかりました。ぜひこれ本当は長井の方に使っていただければ一番いいと思うんですけれども、先ほどの最後の質問でも申し上げたとおり、もし長井市でする方がいなければ最終的に全国に発信して使ってくださいと、熱はただですというようなことで募集していただければななんていうふうに思っています。たとえ50杯、100杯ぐらいが400リットル、500リットルだとしても80度ですから、倍にして40度で幾らかは出るということでもありますので、もしそういったことが全国にでも発信していただければなというふうに考えております。

次に、2番目でございますが、小型家電の回収事業、本当にこの事業をしていただいて市民の方、市長も申されたとおり、たくさんの回収成果があったということでございます。今後はまず8品目から3品目プラスして11品目でやっていくということでございます。私ここで一つお聞きしたいのは、全国的にも小型家電の常設っていうんですか、回収ボックスみたいなのを置いてられるところが各自治体の中にもあるっていうんですけれども、そういったものを何か市民課の脇にちょっとした回収ボックス、もちろん小さな携帯とか、そういったものだけだと思えるんですけれども、そういったものの設置なんかはいかがでしょうか。ぜひ設置して、常々回収できるようにしておくっていうようなことにはならないでしょうか。お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** ただいまの赤間議員のご質問で

ございますが、期間限定としてイベント回収などの期日限定の事業として、例えばイベント回収は休日で開催時期が半日ということで、第2庁舎西側の駐車場の車庫とか、あるいは窓口回収は平日で2週間ほど市民課窓口というふうにしていますが、いわゆるごみ箱みたいに外にぼんと置いときますとみんなぼんぼんぼんぼん入れてしまって、後で分別しなきゃいけないというので、できるだけやはり何ていうんでしょうかね、ある程度廃棄される方のマナーがちゃんと日常的にルール化できれば、そういうものも常時置いててもいいとは思いますが、やはりどうしても品目以外のものが入ってしまったとか、そういったことがあるので、これらについてはまずはイベント回収とか、まずとりあえずそんな形でやってみながら状況を見て広げていければなというふうに思っているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間泰広議員** 確かにほかの他の市町村でやってるところもほかにいろんなごみが入ってくるっていうようなお話聞くんですけども、だからこそ何ていうかな、見える場所に置いておくんだというようなお話なんですけれども、ぜひ前向きに検討していただければ、さらに回収率が上がるんじゃないかなと思います。

これでもう一つ、この回収したものについて市として何らかの例えばごみだからもちろんお金出してしてもらってるとか、そういうこと、ごみっていうのはおかしいですね。資源ごみっていうんですか。資源ごみだから言い方もちょっと難しいんですけども、市としてこれをお金を出して回収してもらっているということなんでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** それにつきまして詳細になりますので、市民課長から答弁いたさせます。

○**渋谷佐輔議長** 鈴木広弥市民課長。

○**鈴木広弥市民課長** 今回の小型家電の回収につきましては、一応有価、お金の値段をつけて引き取っていただけるという形をとっております。中には金を含んでいるというものがあるので、それなりに値段がついておりまして、高いやつについてはキロ当たり10円という値段で。今回につきましては、3万円ほどの収入がございました。ただ、小型家電というのは大変多くの種類がございまして、それなりに採算を持ってやれるものはまだまだ数が少ないという現状がございまして、ですから、範囲をこれから広げていくに従って価値が低いものがどんどんふえてきますので、かなり難しいことが今回予想されるのかなと思っております。

先ほどご提案のありました回収ボックス等につきましても、それはぜひともやってはいきたいんですけども、ただそれほど大きな効果が逆に望めない。今はイベントを開催して、あるいは期間限定でやることによって市民の皆様のご協力によって何とかなっている、つまり子供会の廃品回収と同じような現在状態になっているというふうなことをご理解いただければと思います。

金が入っているといってもぼこっと金が入ってるわけではございませんので、つまりその後、回収してまとめて、ある程度量が必要。しかもそこから製錬しなきゃいけない。しかも製錬で、普通なら開発途上国で排ガスが出たり廃液で死の川になったりというような現象が起きますね。そういった対策もとらなきゃいけないということで、ようやく今仕組みがやっと回り始めたという現状でございますので、これから全国的にこういった仕組みが広がってだんだんと軌道に乗っていくんだらうと。まだ始まったばかりだということをご理解していただければ非常にありがたいと思います。以上でございます。

○**10番 赤間泰広議員** わかりました。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○10番 赤間泰広議員 ありがとうございます。詳しくご指導いただきまして、ありがとうございました。

私は反対にお金出して持って行ってもらうのかなと思ってたら、さすがやはり長井市でキロ10円ぐらいもらってたっていうのはびっくりしたところでございます。よかったなということでございます。

それで3番目の質問なんです、これ健康診断受診率向上のために引き下げてやっていくということで、市長がおっしゃられたとおり、特定健康診査とかは無料になってるということでございます。ぜひ私が一概にこれゼロにしろっていうのは、市長が言われたとおりで大変であるということももう重々わかっておるところでございます。しかしながら、ここが私、きょうの核心の部分でございまして、ぜひ応援もいただいております。

長井市の国民健康保険加入者1人当たりの年間医療費が26年度が1万8,000、前年度と比べて1万8,000円アップしたということで、率にして7.3%のアップだそうでございます。これは予想すると27年も28年もまたまたふえていくんだというようなことを、この間の長井市の「広報ながい」2月1日号に書いてあったところでございます。やはり値段を下げればとか無料にすれば検診率が上がるのかっていうと、確かにそれはすぐイコールじゃないと思うんですけども、いつでも無料でできるんだということであればさらに健康診断受診率が向上して、医療費の抑制ということが考えられると思いますので、ぜひ無料に、すぐとは言いませんけれども、徐々に徐々にこう下げていかれることを私は提言したいなというふうに思っております。

私いつも常々これ思ってるんですけども、35年間一般の企業で働いてきて、健康診断でお金を出したっていうことは1回もないわけです。全て健康保健組合で出してくれたというような

ことでございます。それをいうのであれば国保税を払っている私どももそれに準じてっていうんですか、無料になっていくべきなんじゃないかなっていうふうに考えていますけれども、市長はどのようにその辺のことをお考えになりますか。

○渋谷佐輔議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 後で健康課長にも答弁いたさせますが、私の考え方としては、国保についてはもちろん我々行政のほうもお金を出してるわけでございますので、それにまたさらにそれとは別にそういった受診なんかで限りなく無料にするという二重に支援してるような形なものですから、ほかの例えばいわゆる保険料は高いはずなんです、国保より、比べますと。多分高く、あと事業者負担ももちろんあるんで、だから無料でできるということなんだと思うんですが、したがって、平等性からいったら議員おっしゃるのもわかるんですが、このところは本来であれば余り過大に負担を低くするっていうのもいかなものかなというふうには思います。ただ、なぜこれを私どもずっと限りなく安くして使いやすいようにしていただくかと改善してるのは、第五次総合計画でやっぱり健康が一番だと。それはご本人も家族もみんなということでありますので、そのために一歩ずつやってるということでございますので、なおご理解いただきたいと思っております。

なお、担当課長としての答弁もいたさせていただければというふうに思います。

○渋谷佐輔議長 鈴木広弥市民課長。

○鈴木広弥市民課長 国保の主管課長として現在考えていることとしましては、確かに健診の際の健診料をできるだけ安くしていきたいということは考えております。実際予防という効果は非常に大きいものがございますので、できるだけそういう方向でしたい。ただ、うちのほうは国保なんですけれども、市民の方は国保以外の

方もたくさんいらっしゃるわけでございまして、その平等性というのが非常に難しいところだと非常に思っております。その平等性等を考えてやっぱりいろいろ討議を重ねて、議会の皆さんともいろいろ教えていただいてやっていくしかないのかなと。すぐに無料化ということはできないとは思いますが、赤間議員おっしゃるように、だんだんと安くしていつまで経っても健診を受けていただける環境、受けやすい環境を整えていく必要があるとは思っております。時間をかけて取り組んでいきたいと思っておりますので、ご指導のほうよろしくお願ひしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 伊藤亮一健康課長。

○**伊藤亮一健康課長** 料金の引き下げということにつきましては、やはり国保財政との兼ね合いということもあると思いますが、私どもとしては精いっぱいその兼ね合いの中でやるべきことをやっていくというふうなことに尽きるかと思っております。方向性としては先ほど市長のほうからご答弁を申し上げたように、少しずつではございますが、料金引き下げと。特定健診の部分についてはやはりほかの団体、県内のほかの団体を見るとまだ2,000円程度取ってる団体もある中で、長井市は全年齢、若年者健診も含めて全年齢で特定健診の部分でございまして、無料化というふうなことで26年度から頑張ってるところでございます。料金の引き下げとあわせてやはり健康課サイドといたしましては、疾病予防対策ですか、こちらのほうに目を向けていきたいと、車の両輪のような格好になるかと思っておりますが、先ほど今泉議員のご質問にご答弁申し上げたように、高血圧でありますとか食生活のほうからの切り口、いろいろあると思っております。減塩の問題とか、あと糖尿になりますと、これも先ほど市長のほうからご答弁申し上げたとおりですが、食生活でいえば炭水化物の摂取量云々とか、さまざまあると思っております。

で、動機づけも含めて疾病予防対策、こちらのほうに重点を置いて頑張っていきたいというふうに思っているところでございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間泰広議員** ありがとうございます。突然に市長から振っていただきまして、突然回答していただき、ありがとうございます。

ぜひ皆さん言ってることは正しいですね。私が言ってることもまた正しいわけでございます。ぜひ何か、ことし何か私が言ったことよって一つでも前に進めばなというふうに考えてますので、ぜひご検討をお願いしたいなというふうに思います。やはりこれは相手は人でございますので、医療費の削減なんかに絶対にも貢献するはずでございますので、ぜひ考えていただきたいなというふうに思います。ぜひよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、最後になりますが、これ本当に私も夢、みんな同じような夢をやっぱり持っているんですね。だってここで私も言わないとだめだなというふうに、夜寝れなくなっちゃいますんで、NHKの大河ドラマなんて大げさなこと言ったんですけれども、そういう、これは例えばでございますので、長井にもいろいろ、先ほど小関議員もおっしゃった締切堤防の物語とか、ああいったものなんかもすごく題材になるんじゃないかなと思います。考えれば宝暦7年の何か大洪水が長井市を襲ったってということで、新潟のほう、蒲原郡のほうからその人たちがやってきて、何ですか、再開拓したとかっていう、そういう物語なんかちょっと提供していただいて小説を募集して、特選には100万。これは例えばでございますので、過大に反応していただかなくて結構でございますので、ぜひ何かこういったものを長井市でもやっていかれたらなと思っておるところでございます。

今回、市長がおっしゃった施政方針の中にも

失敗を恐れずチャレンジしていくっていうふう  
に強い口調で述べられておりましたので、これ  
は私も大賛成でございますので、私も同感で前  
へ前へと強いリーダーシップをとっていただき  
たいなというふうに思っております。ぜひ期待  
するところでございます。

最後に、これ私、前にも申し上げたんですけ  
れども、この言葉を送って私の質問を終わりたい  
と思います。「桃李もの言わざれども下おの  
ずから蹊を成す」ということでございます。こ  
れは史記にあります李將軍の伝記ですか、伝説  
から、桃やスモモは何も言わないが、花や実を  
慕って人が多く集まるので、その下には自然に  
道ができるということでございます。そして徳  
望のある人のもとへは人が自然に集まるという  
ことでございます。きっと市長も徳望のあるよ  
き政治家でございますので、そういう意味では  
黙っていてもいいことさえしていれば人は集ま  
ってくるということでございます。ぜひ強いリ  
ーダーシップをとって、長井創生、地域創生の  
ために頑張っていたきたいなというふうに思  
います。

以上で私の質問を終わります。ありがとうご  
ざいました。

## 散 会

○渋谷佐輔議長 本日はこれをもって散会いたし  
ます。

再開は、7日午前10時といたします。ご協力  
ありがとうございました。

午後 5時03分 散会